途上国森林づくり活動貢献可視化事業
第3回事業運営委員会

説明資料5

事業紹介普及活動：ウェブサイト進捗状況、セミナー開催報告

国際緑化推進センター（JIFPRO）
倉本 潤季

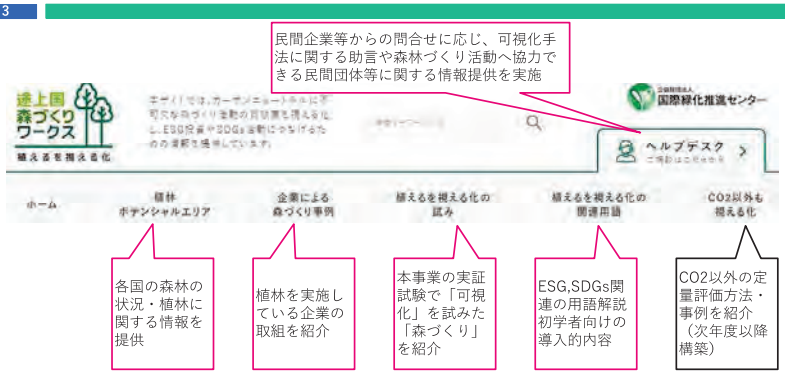
途上国森づくりワークス（Webサイト）のトップページ

2

近日中に公開予定

途上国森づくりワークス（Webサイト）の構造

3



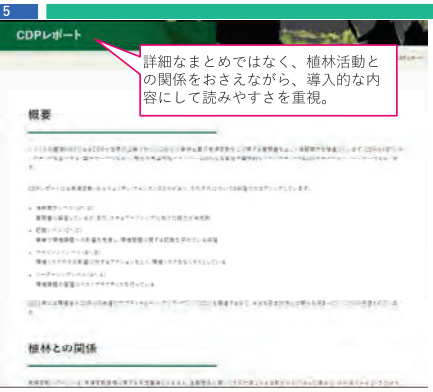
Webサイト：企業による森づくり事例ページ

4

- 想定ターゲット
  - 森づくり活動の実施を検討する企業：計画の参考、説明材料など
  - 森づくり活動を実施している企業：先行事例として活用
- 掲載内容
  - 森づくり実施企業の基礎情報
  - 森づくりに期待する事、目標
  - バリューチェーン内外の区別
  - 森づくり活動メニュー
  - 現地実施体制
  - 活動実施までの経緯
  - 活動の可視化状況

Webサイト：用語集ページ

5



- 想定ターゲット
  - 森づくり活動について、具体的計画の段階にもない企業担当者：環境・森林などが専門でない人への導入
- 掲載内容
  - 重要用語の概要説明
  - 植林活動との関係性
  - より詳しく知るための参考文献・URL

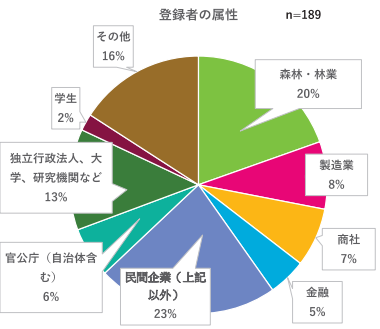
セミナー実施概要

6

- 2023年3月8日13:30~16:00
- 登壇者
  - 事業概要
    - 柴崎 一樹(JIFPRO)
  - 企業による植林活動紹介
    - 城 千聡(三井住友海上)
    - 高井 智幸(トヨタ紡織)
  - 実証試験報告
    - 石森 正俊(コマツ)
    - 黄 勝澤(アジア航測)
- 参加人数
  - 事前登録：189名
  - 当日参加：135名
  - 事後動画視聴：45名（3月15日現在）

セミナー事後評価：登録者の分析

7

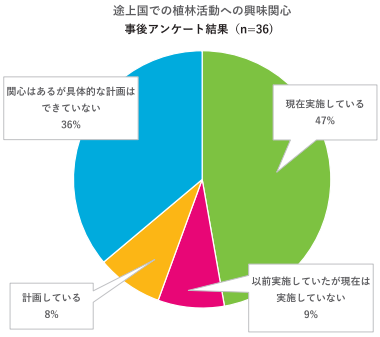


- 登録者の63%が民間企業
  R03森林再生事業セミナー民間企業：52%
- 民間企業（上記以外）は主に
  - エネルギー関係
  - 航測、コンサルタント
  - インフラ、建設業

  など
- その他は主に
  - NGO

セミナー事後評価：植林活動への興味関心

8



- 約半数が植林を現在実施している
- 1/3程度が「関心はあるが具体的な計画はできていない」
  - 「現在は実施していない」も含めると45%

※上記結果は登録時アンケート（n=189）でもほぼ同様

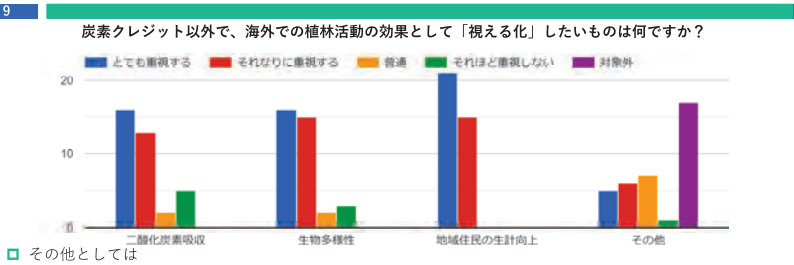
- 植林活動を継続できていない／計画を進められない要因としては
  - 植林以外の分野に注力することになった
  - コストと時間がかかる
  - 知識や人材の不足

  といった回答が主。

⇒ 適切な知識の提供やコストに見合う成果を提案できることが重要

セミナー事後評価：視える化への期待

9



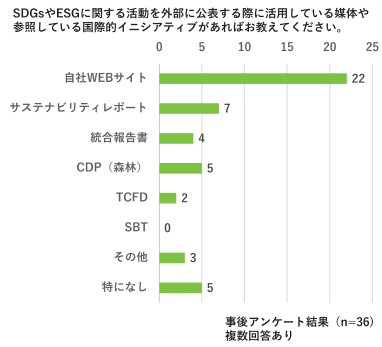
事後アンケート結果（n=36）

- その他としては
  - 持続性に関するリスク評価
  - 社員の環境保全、生物多様性への意識醸成
  - 水資源確保
  - 国家目標やＳＤＧｓへの貢献度
  - （生計だけでなく）地域住民の権利やインフラなど生活水準の向上
- 二酸化炭素吸収や生物多様性は必ずしも重視しない意見も⇔地域住民生計向上は全員が「重視する」

⇒ 「その他」の回答も含め、広く地域住民の便益が重要視されている傾向

セミナー事後評価：活動情報の公表・活用

10



事後アンケート結果（n=36）
複数回答あり

- 自社WEBサイトでの公表がほとんど
- TCFDやSBTの活用は限定的
  - 認知度の問題
  - バリューチェーン外の活動である場合の制約

⇒ WEBサイトでの公表に適した可視化手法の検討

⇔ 現状ではWEBサイト以外で公表しにくい／活用方法がわからない可能性

✓ 可視化した後に「どう使うか」が重要

セミナー事後評価：植林活動の課題・要望

11

植林活動に関する課題

- F/Sやパイロット事業など準備段階での資金提供
- REDD＋における植林事例の不足
  - 方法論やバイオマス量などのデータ不足
- 対象地域や造林技術、木材利用に関する専門性の欠如。専門家へのアクセスの欠如
- 地域住民の参画及びその意識の醸成

必要な情報・体制など

- 炭素クレジット化や可視化にかかる費用負担を含めてSDGsへの貢献として評価される仕組み
  - 中小企業などへの政府の支援
- 植林実施後の持続的な経営のための体制
  - 保育やモニタリングなどの資金や実務者
- 国や準国レベルで多くの植林適地・候補地の情報の比較ができるようなツール